

基準6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到る状況】

本学は半期ごとのセメスター制を採用し、セメスター終了時に授業科目の成績評価及び単位認定を行っている。3ヶ年度とも平均して入学者の96%程度の学生が、規定年数で学士の学位を取得し、卒業している（資料6-1-①-1）。資格取得に関しては、全国平均を上回る高い合格率を達成している（資料6-1-①-2）。

大学院修士課程については平成22年度に初めての修了生を輩出し、平成24年度については11名が修了認定を受けた。修了生は、それぞれ医療機関もしくは教育機関に就職もしくは復帰、あるいは博士後期課程への進学を果たした。（資料6-1-①-3）

資料6-1-①-1 規定年数で卒業した卒業生の状況

(単位：人)			
	22年度（19年度入学生）	23年度（20年度入学生）	24年度（21年度入学生）
看護学部	76 (92.7%)	82 (98.8%)	78 (94.0%)
診療放射線学部	35 (97.2%)	36 (100.0%)	35 (97.2%)
計	112 (95.0%)	118 (99.2%)	113 (95.0%)

※（ ）内は入学者のうち、規定年数で卒業した者の割合

※平成21年度入学者数 看護学部：83名、診療放射線学部：35名

平成20年度入学者数 看護学部：82名、診療放射線学部：36名

平成19年度入学者数 看護学部：82名、診療放射線学部：36名

資料6-1-①-2 学部生の国家試験合格率の推移（単位：人、%）

＜平成24年度 第5期卒業生＞						
試験種別	卒業生	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	合格率 全国平均
看護師国家試験	80	80	80	0	100.0%	88.8%
保健師国家試験	80	80	80	0	100.0%	96.0%
診療放射線技師国家試験	35	35	33	2	94.3%	66.6%
＜平成23年度 第4期卒業生＞						
試験種別	卒業生	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	合格率 全国平均
看護師国家試験	83	83	82	1	98.8%	95.1%
保健師国家試験	83	81	72	9	88.9%	89.2%
診療放射線技師国家試験	36	36	36	0	100.0%	83.4%

＜平成 22 年度 第 3 期卒業生＞

試験種別	卒業生	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	合格率 全国平均
看護師国家試験	78	78	77	1	98.7	96.6%
保健師国家試験	78	78	69	9	88.5	89.7%
診療放射線技師国家試験	35	35	34	1	97.1	83.0%

※国家試験不合格であった既卒生が受験するケースがあるため、卒業生数より受験者数が多い場合がある。

資料6-1-①-3 研究科生の修了状況

＜平成 24 年度＞

	修了生
看護学研究科	8
診療放射線学研究科	3
計	11

＜平成 23 年度＞

	修了生
看護学研究科	5
診療放射線学研究科	2
計	7

＜平成 22 年度＞

	修了生
看護学研究科	4
診療放射線学研究科	3
計	7

※研究科においては、長期履修制度選択者（在籍期間が3年以上の計画の者）がいるため、入学定員と修了者数に差が生じている

【分析結果とその根拠理由】

学部学生の卒業状況や資格取得状況、研究科生の修了状況から、教育の成果は十分に上がっている。

観点6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

平成 22 年度から合同 FD 委員会主催で学生による授業評価を実施しており、評価項目に対して5点満点で評価を行っている。教養教育科目、専門基礎科目、専門科目のいずれにおいても、また講義、演習、実習、実験のいずれの授業形態においても、4点以上の得点を得ている。

【分析結果とその根拠理由】

学生による授業評価においても本学の授業は高い評価を得ており、教育の成果や効果は十分に上がっている。

観点6-2-①： 就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

本学学生の進路状況については、資料6-2-①-1に示すとおりである。就職希望者の就職率は看護学部で100%、診療放射線学部で93.9%であり、進学希望者についても100%が大学院もしくは助産師課程等に進学を果たした。

研究科修了生は、原所属の医療機関への復帰者を含め、全員が就職している

資料6-2-①-1 卒業生・修了生の進路状況

＜平成24年度卒業・修了生＞								
学部・研究科名	卒業・ 修了者数	進路希望			進路状況			就職率
		就職希望(a)	進学希望	その他	就職(b)	進学	未定	b/a
看護学部	80	77	3	0	77	3	0	100.0%
診療放射線学部	35	33	2	0	31	2	2	93.9%
看護学研究科	8	8	0	0	8	0	0	100.0%
診療放射線学研究科	3	3	0	0	3	0	0	100.0%
＜平成23年度卒業・修了生＞								
学部・研究科名	卒業・ 修了者数	進路希望			進路状況			就職率
		就職希望(a)	進学希望	その他	就職(b)	進学	未定	b/a
看護学部	83	79	4	0	78	4	1	98.7%
診療放射線学部	36	34	2	0	34	2	0	100.0%
看護学研究科	5	5	0	0	5	0	0	100.0%
診療放射線学研究科	2	2	0	0	2	0	0	100.0%
＜平成22年度卒業・修了生＞								
学部・研究科名	卒業・ 修了者数	進路希望			進路状況			就職率
		就職希望(a)	進学希望	その他	就職(b)	進学	未定	b/a
看護学部	78	76	2	0	76	2	0	100.0%
診療放射線学部	35	33	2	0	33	2	0	100.0%
看護学研究科	4	4	0	0	4	0	0	100.0%
診療放射線学研究科	3	3	0	0	3	0	0	100.0%

※ 就職率は「就職を希望する者」のうち「就職を果たした者」の割合
 ※ 研究科修了生のうち、就職者は原所属の医療機関に復帰を果たした者を含む

【分析結果とその根拠理由】

就職・進学実績は非常に良好であり、学習成果は十分上がっている。

観点6-2-②： 卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、学習成果が上

がっているか。

【観点に係る状況】

看護学部はカリキュラム評価を目的とし、卒業予定者、卒業生および卒業生の上司・先輩を対象とした調査を行った。

卒業予定者を対象とした調査の概要は、資料6-2-②-1のとおりである。平成24年度の卒業予定者80名のうち3月に行ったキャリアガイダンスの出席者32名に対して調査用紙を配付し、回収数は25部であった（回収率31.3%）。調査の結果、卒業予定者は、4年間に「人々の健康維持・促進に対する使命感」「人間の生涯とその生活に対する関心と理解」「個別性のある看護」「看護過程」「看護技術」などが身についたと評価していた。また、4年間に「解剖生理の知識」や「薬理の知識」「診療科別の看護」「疾患の知識」などをもう少し身につけたかったと評価した（資料6-2-②-2）。大学で受けた教育内容の満足度については、22名（88.0%）が「満足している」「ほぼ満足している」と評価していた（資料6-2-②-3）。

看護学部の卒業生を対象とした調査の概要は、資料6-2-②-4のとおりである。平成22年度および平成23年度の卒業生161名に対して調査用紙を配付し、回収数は22部であった（回収率13.7%）。調査の結果、卒業生は、質問項目の大項目Ⅳを除くⅠ～Ⅵのほぼ全ての下位項目において、8～9割以上の卒業生が「3：わりに当てはまる」「4：かなり当てはまる」「5：非常に当てはまる」と回答した（資料6-2-②-5）。大学で受けた教育内容に対する満足度では、全員が「満足している」「やや満足している」のどちらかに回答していた（資料6-2-②-6）。

看護学部の卒業生の上司・先輩を対象とした調査の概要は、資料6-2-②-7のとおりである。平成22年度および平成23年度の卒業生の県内就職先の上司・先輩72名に対して調査用紙を配付し、回収数は43部であった（回収率59.7%）。調査の結果、卒業生の上司・先輩は、質問項目の大項目Ⅳ・Ⅵを除くⅠ～Ⅴのほぼ全ての下位項目において、7割以上の上司が「3：わりに当てはまる」「4：かなり当てはまる」「5：非常に当てはまる」と回答した（資料6-2-②-8）。

資料6-2-②-1 卒業予定者に対する調査の概要〔看護学部〕

	対象者	平成24年度の看護学部卒業予定者80名
調査方法	調査用紙	独自に作成した「群馬県立県民健康科学大学看護学部の教育に関する調査用紙」を用いた。質問内容は、4年間に身についたと思うことおよび4年間に身につけたかったと思うこと及び大学で受けた教育内容の満足度（4段階リッカート法）である。
	データ収集	調査担当が直接、対象者に調査用紙を配付した。また、対象者に調査用紙と返信用封筒とともに調査の目的、意義、返信方法を明記した調査依頼用紙を配付した。また、返信用封筒を使用して調査用紙を個別に返信するよう依頼した。
	データ分析	各質問項目ごとに回答数を集計し、割合を算出した。

資料6-2-②-2：卒業予定者が4年間に身についた及び身につけたかったと思う内容〔看護学部〕

n=25 単位：人

項目	身についたと思うこと		身につけなかったと思うこと	
	回答数	(%)	回答数	(%)
1. 保健医療チームの一員としての基礎的能力	5	(20.0)	3	(12.0)
2. 専門職としての倫理観	9	(36.0)	2	(8.0)
3. 科学的根拠に基づく実践のための基礎的能力	16	(64.0)	1	(4.0)
4. 科学的根拠に基づく実践の重要性	17	(68.0)	1	(4.0)
5. 人間の生涯とその生活に対する関心と理解	9	(36.0)	0	(0.0)
6. 人々の健康維持・促進に対する使命感	4	(16.0)	2	(8.0)
7. 看護の対象としての人間の理解	10	(40.0)	0	(0.0)
8. 対象に対する観察力	11	(44.0)	4	(16.0)
9. 対象の安全への配慮	12	(48.0)	1	(4.0)
10. 発達段階に応じた看護	14	(56.0)	1	(4.0)
11. 健康障害に応じた看護実践	6	(24.0)	2	(8.0)
12. 個別性のある看護	16	(64.0)	1	(4.0)
13. 看護技術	13	(52.0)	17	(68.0)
14. 看護過程	15	(60.0)	2	(8.0)
15. 対象のアセスメント	16	(64.0)	6	(24.0)
16. 疾患の知識	10	(40.0)	14	(56.0)
17. 解剖生理の知識	5	(20.0)	20	(80.0)
18. 薬理の知識	5	(20.0)	18	(72.0)
19. 問題解決能力	7	(28.0)	4	(16.0)
20. コミュニケーション能力	9	(36.0)	3	(12.0)
21. 主体的に学ぶ姿勢	7	(28.0)	0	(0.0)
22. 責任感	8	(32.0)	1	(4.0)
23. リーダーシップ	4	(16.0)	7	(28.0)
24. 発表資料の作成方法	7	(28.0)	7	(28.0)
25. 教養	5	(20.0)	3	(12.0)
26. 社会のマナー	5	(20.0)	4	(16.0)
27. その他	0	(0.0)	0	(0.0)
計		245		124

資料6-2-②-3：卒業予定者の本学の教育内容に対する満足度【看護学部】

n=25 単位：人

項目	回答数	(%)
1. 満足している	2	(8.0)
2. ほぼ満足している	20	(80.0)
3. あまり満足していない	2	(8.0)

4. 満足していない	0 (0.0)
無回答	1 (4.0)
計	25 (100.0)

資料6-2-②-4 卒業生に対する調査の概要〔看護学部〕

	対象者	平成22年度および平成23年度の看護学部卒業生 161名
調査方法	調査用紙	独自に作成した「群馬県立県民健康科学大学看護学部の卒業生の特性に関する尺度」を用いた。この尺度は、Ⅰ～Ⅵの大項目について、各項目に5つずつ30の下位尺度より構成されており、5段階リッカート法で測定した。大項目Ⅰは、「保健医療チームの一員としての責任と義務を全うする」、Ⅱは「対象の尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を提供する」、Ⅲは「対象の発達や生活への関心と理解を示し、看護を実践する」、Ⅳは「様々な地域に生活する人々の健康維持・増進に貢献する責任を自覚する」、Ⅴは「看護専門職としての自覚と倫理観を持つ」、Ⅵは「科学や学術、研究成果の活用を価値づける」に関する質問項目である。また、授業の満足度を問う質問では、4段階リッカート法で回答を求めた。
	データ収集	対象者の保護者宅に調査用紙を郵送した。その際、調査の目的、意義、返信方法を明記した調査依頼用紙を同封し、返信用封筒を使用して調査用紙を個別に返信するよう依頼した。
	データ分析	各質問項目ごとに回答数を集計し、割合を算出した。

資料6-2-②-5 「卒業生の特性に関する尺度」に対する卒業生の回答結果〔看護学部〕

Ⅰ. 保健医療チームの一員としての責任と義務を全うする。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
1.他職種の役割を理解した上で看護職者としての役割を果たす	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (45.5)	8 (36.4)	9 (40.9)
2.対象の問題を解決・回避するための情報をチームメンバーと共有する	0 (0.0)	1 (4.5)	5 (22.7)	9 (40.9)	4 (18.2)
3.対象の問題を解決・回避するためにチームメンバーと協働する	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	15 (68.2)	3 (13.6)
4.チームの一員としてよりよい看護を実現するために他者に支援を求める	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.1)	11 (50.0)	7 (31.8)
5.職場内外の保健医療システムの理解に努める	1 (4.5)	4 (18.2)	11 (50.0)	6 (27.3)	2 (9.1)

Ⅱ. 対象の尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を提供する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
6.原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供する	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (22.7)	8 (36.4)	9 (40.9)
7.対象の意思や価値観、ライフスタイル等を尊重して看護を実践する	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (27.3)	12 (54.5)	4 (18.2)
8.対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントする	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (13.6)	16 (72.7)	3 (13.6)

9.看護学の専門的な知識、専門基礎の知識に基づき実践する	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (18.2)	11 (50.0)	7 (31.8)
10.正確な対象理解に基づき教育的な支援を行う	0 (0.0)	1 (4.5)	7 (31.8)	12 (54.5)	2 (9.1)

Ⅲ. 対象の尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を提供する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
11.解剖学・生理学等の知識に基づき対象の健康問題をアセスメントする	1 (4.5)	0 (0.0)	7 (31.8)	14 (63.6)	0 (0.0)
12.対象の発達や加齢に伴う変化を理解した上で看護を実践する	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (27.3)	12 (54.5)	4 (18.2)
13.対象の生活の場や暮らしぶりを理解した上で看護を実践する	0 (0.0)	1 (4.5)	5 (22.7)	14 (63.6)	2 (9.1)
14.対象の過去や将来の生活・健康を見据えて日々の看護を実践する	0 (0.0)	1 (4.5)	6 (27.3)	12 (54.5)	3 (13.6)
15.対象の家族やキーパーソンも含めて看護を実践する	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (27.3)	11 (50.0)	5 (22.7)

Ⅳ. 様々な地域に生活する人々の健康維持・増進に貢献する責任を自覚する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
16.対象となる人々が継承してきた文化の特徴に関心を向ける	1 (4.5)	6 (27.3)	12 (54.5)	3 (13.6)	1 (4.5)
17.対象となる人々が生活する地域特有の生活様式に柔軟に対応する	1 (4.5)	9 (40.9)	8 (36.4)	4 (18.2)	0 (0.0)
18.対象となる人々が生活する地域の健康問題の動向に関心を向ける	2 (9.1)	12 (54.5)	4 (18.2)	4 (18.2)	0 (0.0)
19.対象となる人々が生活する地域の行政に関心を向ける	3 (13.6)	12 (54.5)	4 (18.2)	3 (13.6)	0 (0.0)
20.国内外の社会情勢やその変化に関心を向ける	4 (18.2)	8 (36.4)	8 (36.4)	1 (4.5)	0 (0.0)

Ⅴ. 看護専門職としての自覚と倫理観を持つ。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
21.対象となる人々に公平に看護を提供する	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.1)	10 (45.5)	10 (45.5)
22.守秘義務を遵守し、対象の個人情報の保護に努める	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (13.6)	6 (27.3)	13 (59.1)
23.自己の責任と能力を自覚し、自分自身の実践した看護に責任をもつ	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.1)	13 (59.1)	7 (31.8)
24.社会の人々の信頼を得るよう個人として正しい行いを心がける	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (13.6)	11 (50.0)	8 (36.4)
25.職能団体への加入等を通して看護の質	0 (0.0)	2 (9.1)	11 (50.0)	8 (36.4)	1 (4.5)

向上に結びつく活動に参加する					
----------------	--	--	--	--	--

VI. 科学や学術、研究成果の活用を価値づける。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
26.看護実践をよりよくするために創意工夫する	0 (0.0)	1 (4.5)	10 (45.5)	10 (45.5)	1 (4.5)
27.研究成果を活用しながら日々の看護を実践する	1 (4.5)	8 (36.4)	8 (36.4)	5 (22.7)	0 (0.0)
28.職業上の問題を解決するために看護学の知識や理論を活用する	0 (0.0)	3 (13.6)	11 (50.0)	7 (31.8)	1 (4.5)
29.客観的に物事をとらえ道筋を立てて職業上の問題を解決する	0 (0.0)	2 (9.1)	12 (54.5)	8 (36.4)	0 (0.0)
30.自己評価しながら学習を継続する	0 (0.0)	1 (4.5)	8 (36.4)	10 (45.5)	3 (13.6)

資料6-2-②-6：大学で受けた教育内容に対する卒業生の満足度〔看護学部〕 単位：人、()内は%を示す。

	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない
教育内容への満足	12 (54.5)	10 (45.5)	0 (0.0)	0 (0.0)

資料6-2-②-7 卒業生の上司・先輩に対する調査の概要〔看護学部〕

	対象者	平成22年度および平成23年度の看護学部卒業生の県内就職先の上司・先輩72名
調査方法	調査用紙	独自に作成した「群馬県立県民健康科学大学看護学部の卒業生の特性に関する尺度」を用いた。これは、Ⅰ～Ⅵの大項目について、各項目に5つずつ30の低位尺度より構成されており、5段階リッカート法で測定した。大項目Ⅰは、「保健医療チームの一員としての責任と義務を全うする」、Ⅱは「対象の尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を提供する」、Ⅲは「対象の発達や生活への関心と理解を示し、看護を実践する」、Ⅳは「様々な地域に生活する人々の健康維持・増進に貢献する責任を自覚する」、Ⅴは「看護専門職としての自覚と倫理観を持つ」、Ⅵは「科学や学術、研究成果の活用を価値づける」に関する質問項目である。
	データ収集	調査依頼は看護部長等に説明する方が協力が得られやすいため、複数の卒業生が就職している施設については、教員が直接、看護部長に説明し調査用紙を配付した。対象者には調査用紙と返信用封筒とともに調査の目的、意義、返信方法を明記した調査依頼用紙を配付した。また、返信用封筒を使用して調査用紙を個別に返信するよう依頼した。
	データ分析	各質問項目ごとに回答数を集計し、割合を算出した。

資料6-2-②-8：「卒業生の特性に関する尺度」に対する先輩・上司の回答結果〔看護学部〕

I. 保健医療チームの一員としての責任と義務を全うする。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
1.他職種役割を理解した上で看護職者としての役割を果たす	1 (2.3)	5 (11.6)	27 (62.8)	6 (14.0)	4 (9.3)

2.対象の問題を解決・回避するための情報をチームメンバーと共有する	0 (0.0)	3 (7.0)	18 (41.9)	17 (39.5)	5 (11.6)
3.対象の問題を解決・回避するためにチームメンバーと協働する	1 (2.3)	2 (4.7)	18 (41.9)	17 (39.5)	5 (11.6)
4.チームの一員としてよりよい看護を実現するために他者に支援を求める	2 (4.7)	2 (4.7)	11 (25.6)	21 (48.8)	7 (16.3)
5.職場内外の保健医療システムの理解に努める	2 (4.7)	16 (37.2)	19 (44.2)	5 (11.6)	0 (0.0)

II. 対象の尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を提供する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
6.原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供する	1 (2.3)	5 (11.6)	19 (44.2)	14 (32.6)	4 (9.3)
7.対象の意思や価値観、ライフスタイル等を尊重して看護を実践する	1 (2.3)	5 (11.6)	21 (48.8)	11 (25.6)	5 (11.6)
8.対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントする	2 (4.7)	8 (18.6)	18 (41.9)	13 (30.2)	2 (4.7)
9.看護学の専門的な知識、専門基礎の知識に基づき実践する	1 (2.3)	8 (18.6)	22 (51.2)	11 (25.6)	1 (2.3)
10.正確な対象理解に基づき教育的な支援を行う	1 (2.3)	10 (23.3)	26 (60.5)	6 (14.0)	0 (0.0)

III. 対象の発達や生活への関心と理解を示し、看護を実践する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
11.解剖学・生理学等の知識に基づき対象の健康問題をアセスメントする	1 (2.3)	4 (9.3)	27 (62.8)	10 (23.3)	1 (2.3)
12.対象の発達や加齢に伴う変化を理解した上で看護を実践する	1 (2.3)	4 (9.3)	23 (53.5)	13 (30.2)	2 (4.7)
13.対象の生活の場や暮らしぶりを理解した上で看護を実践する	1 (2.3)	7 (16.3)	25 (58.1)	10 (23.3)	0 (0.0)
14.対象の過去や将来の生活・健康を見据えて日々の看護を実践する	3 (7.0)	8 (18.6)	27 (62.8)	4 (9.3)	1 (2.3)
15.対象の家族やキーパーソンも含めて看護を実践する	2 (4.7)	11 (25.6)	16 (37.2)	14 (32.6)	0 (0.0)

IV. 様々な地域に生活する人々の健康維持・増進に貢献する責任を自覚する。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
16.対象となる人々が継承してきた文化の特徴に関心を向ける	4 (9.3)	14 (32.6)	19 (44.2)	6 (14.0)	0 (0.0)
17.対象となる人々が生活する地域特有の生活様式に柔軟に対応する	5 (11.6)	16 (37.2)	18 (41.9)	4 (9.3)	0 (0.0)
18.対象となる人々が生活する地域の健康	7 (16.3)	18 (41.9)	12 (27.9)	6 (14.0)	0 (0.0)

問題の動向に関心を向ける					
19.対象となる人々が生活する地域の行政に関心を向ける	8 (18.6)	20 (46.5)	12 (27.9)	3 (7.0)	0 (0.0)
20.国内外の社会情勢やその変化に関心を向ける	9 (20.9)	21 (48.8)	11 (25.6)	1 (2.3)	1 (2.3)

V. 看護専門職としての自覚と倫理観を持つ。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
21.対象となる人々に公平に看護を提供する	0 (0.0)	3 (7.0)	13 (30.2)	19 (44.2)	8 (18.6)
22.守秘義務を遵守し、対象の個人情報の保護に努める	0 (0.0)	1 (2.3)	11 (25.6)	18 (41.9)	13 (30.2)
23.自己の責任と能力を自覚し、自分自身の実践した看護に責任をもつ	2 (4.7)	3 (7.0)	15 (34.9)	17 (39.5)	6 (14.0)
24.社会の人々の信頼を得るよう個人として正しい行いを心がける	1 (2.3)	2 (4.7)	14 (32.6)	20 (46.5)	6 (14.0)
25.職能団体への加入等を通して看護の質向上に結びつく活動に参加する	5 (11.6)	8 (18.6)	19 (44.2)	10 (23.3)	1 (2.3)

VI. 科学や学術、研究成果の活用を価値づける。

単位：人、()内は%を示す。

項目	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	わりに当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
26.看護実践をよりよくするために創意工夫する	5 (11.6)	15 (34.9)	19 (44.2)	3 (7.0)	1 (2.3)
27.研究成果を活用しながら日々の看護を実践する	7 (16.3)	21 (48.8)	12 (27.9)	3 (7.0)	0 (0.0)
28.職業上の問題を解決するために看護学の知識や理論を活用する	6 (14.0)	14 (32.6)	18 (41.9)	5 (11.6)	0 (0.0)
29.客観的に物事をとらえ道筋を立てて職業上の問題を解決する	4 (9.3)	15 (34.9)	18 (41.9)	6 (14.0)	0 (0.0)
30.自己評価しながら学習を継続する	2 (4.7)	6 (14.0)	23 (53.5)	7 (16.3)	5 (11.6)

【分析結果とその根拠】

看護学部の卒業予定者に対する調査結果から、「4年間の学習で身についたと思うこと」は、回答数が50%以上の項目でみると、「科学的根拠に基づく実践の重要性」、「科学的実践に基づく実践のための基礎的能力」、「個別性のある看護」、「対象のアセスメント」、「看護過程」、「発達段階に応じた看護」、「看護技術」であり、本学の卒業生の特性である「科学的根拠に基づく実践」や「看護過程の展開」に関する重要な知識・技術の修得度が高いことを示している。「4年間の学習で身につけたかったこと」は、回答数が50%以上の項目でみると、「解剖生理の知識」、「薬理の知識」、「看護技術」、「疾患の知識」であり、解剖生理、薬理、疾患等の専門基礎科目に関する知識は、さらに高い修得度を求めている。また、「看護技術」は、「4年間の学習で身についたと思うこと」の回答では修得度が高いが、一方、「4年間の学習で身につけたかったこと」の回答では、さらに高い修得度を求めており、修得度に差があることを示している。「大学で受けた教育内容の満足度」については、「満足している」、

「ほぼ満足している」を合わせると 22 人 (88.0%) であり、概ね本学の教育内容に満足していることを示している。

看護学部の卒業生からの本学部カリキュラムの評価は、概ね良好であり、本学部の教育目的・目標の達成に有効なカリキュラムであり、本学部の教育成果が卒業後の実践に活かされている。しかし、大学で受けた教育内容に対する満足度においては、現実の実践場面での適応困難感に関する記載があり、教育内容の再検討の必要性が示されている。

看護学部の上司・先輩からの本学部カリキュラムの評価は概ね良好であり、大学が期待する卒業生像を反映させた実践者の育成が出来ていると判断できる。しかし、科学的根拠に基づいた看護実践は、本学部の教育目標のキーワードでもあり、4 年次における看護学研究Ⅱ (EBP) 等を開講し、本学部カリキュラムの独自性を打ち出し、強化している部分でもあるが、多くの上司・先輩は目標達成ができていないと評価している現状が明らかになり、今後の検討課題である。

診療放射線学部も、卒業生と就職先の上司に対する調査を行った。調査内容は、資料 6-2-②-5 のとおりである。平成 22 年度卒業生および就職先の上司、各 35 名に対して調査用紙を配付した。回収数は卒業生が 9 部 (回収率 25.7%)、就職先上司が 29 部 (回収率 82.9%) であった。

卒業生に対する調査の結果、本学で受けた教育を全体的に満足したと回答した者は 66.7% であった。診療放射線技師の仕事を行う上で、「知識と教養を身につけた」、「医療チームの一員としての職種と協力する上で役立つ」、「診療放射線技師としての法的・道徳的・倫理的視点で問題を捉える上で役立つ」という回答者が 70% 前後であるのに対し、「物事を批判的に思考する上で役立つ」、「人間を包括的に理解する上で役立つ」という回答は 22% であった。また、診療放射線技師としての行動調査の結果は、「わからないことについて積極的に調べている」、「職場内での人間関係を円滑にするよう積極的に働きかけている」、「患者の人権やプライバシーが損なわれそうなどときは何らかの行動を起こしている」という回答者が各々 70% 以上存在した。自由記述には、「最新の放射線の知識、技術、機器の情報を得ることができた」、「研究を学会で発表できたことでプレゼンテーションの仕方や学会の雰囲気を知ることができた」という意見に加え、「画像読影、救急撮影など臨床場面で使える実践的な授業が必要」など問題点を指摘する意見も寄せられた。

就職先上司に対する調査の結果、卒業生は、「仕事への適応力」、「チームの一員として仕事を遂行する能力」、「専門的な知識や技術を習得しようとする努力」に対し 60% 前後の評価を得たものの、「問題解決能力」、「患者の状況の的確な把握」には 35% 前後の評価であった。参考までに、他校新卒者と相対的に比較した本学卒業生の総合的な能力に対する評価を受けたところ、66.7% が優れているとの結果であった。

資料 6-2-②-5 診療放射線学部における卒業生および就職先上司に対する調査内容

対象者	調査内容
卒業生	<p>自作の調査用紙を用いた。これは、次の問 1 から 8 より構成されている。</p> <p>問 1 から 3 は、回答者の基礎情報 (性別、診療放射線技師としての勤務状況、病床数) についての質問である。</p> <p>問 4 から 7 は、「本学で受けた教育の全体的な満足度」、「学習設備が十分であったか」、「診療放射線技師の仕事を行うにあたって本学で受けた教育が役立ったか (11 項目)」、「診療放射線技師の仕事を行っている中でどのような行動をとっているか (10 項目)」について、5 段階リカート型尺度を用いた質問である。</p> <p>問 8 は、本学の教育について思うことを問う自由回答式質問である。</p>

就職先上司	<p>自作の調査用紙を用いた。これは、次の問 1 から 3 より構成されている。</p> <p>問 1 と 2 は、回答者の基礎情報（性別、病床数）についての質問である。</p> <p>問 3 は、本学卒業生について「コミュニケーション能力」、「仕事への適応力」など、11 項目について、5 段階リカート型尺度を用いた質問である。</p> <p>さらに、本学の教育についての意見や要望について自由記述による聴取を行った。</p>
-------	--

【分析結果とその理由】

看護学部は今回の調査から、卒業予定者が本学看護学部の教育をどのように評価しているのかが明らかになった。この結果は、学習者の意見を反映した教育改善に活用可能である。また、卒業予定者が同様の内容であっても、それに対して異なる評価をすることも明らかにした。例えば、「看護技術」を身についたとする評価もある一方、身につけなかったとする評価もあった。また、「EBPの開講を早めて欲しい」とする評価もある一方、「EBPの開講時期は問題ない」とする評価もあった。これは、卒業予定者の価値基準が教育の専門的観点から確率されていないために生じている可能性が高い。また、この結果のみに基づき教育の成果を判断する危険性を示す。

今後は、就職先等の関係者、教育の提供者等の意見を聴取し、専門的観点から、本学の教育理念・教育目的・目標と関連づけながら学習成果が上がっているか否かを総合的に検討していくことが課題である。

診療放射線学部では、大学完成年から実施している卒業生および就職先上司からの意見聴取を今年度も実施した。その結果から本学の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。しかし、教育に対する問題点も具体的に指摘されていることから、今後は過去3年分の卒業生および就職先上司に対する調査結果に基づき、学習成果を総合的に評価し、カリキュラムを検討していく必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

学生からの授業評価により、いずれの授業科目において高い満足度が得られている。

国家資格等の取得状況、就職・進学状況からみると、教育の成果は十分上がっていると判断できる。

看護学部卒業予定者の評価より、4年間に身についたと思う内容は、「主体性」「問題解決方法」「コミュニケーション能力」「責任感」「根拠に基づく実践」等、本学卒業生の特性の根幹となる内容が含まれており、教育の成果が上がっていると判断できる。

【改善を要する点】

看護師、保健師、診療放射線技師の国家試験合格率をさらに高い水準で維持できるよう、組織として一層の努力が必要である。